

第4回 精神神経内分泌免疫学(PNEI)研究集会

1. 日程

2006年6月17日(土) 13:00~17:30

受付(12:30~)

2. 会場

別府大学 32号館 500番教室

別府大学ホームページ

<http://www.beppu-u.ac.jp/>

3. 交通

別府大学別府キャンパスアクセスマップ

<http://www.beppu-u.ac.jp/annai/access.html>

4. 主催

矢島潤平(別府大学文学部人間関係学科)

5. プログラム

特別講演 13:10-14:00

『免疫学の基礎』

山本俊輔 先生(別府大学食物栄養科学部)

研究発表 14:10-17:20(1 演題 30 分間)

演題1 『唾液中コルチゾルの分析キットの特徴について

—キット間の相関ならびに血漿コルチゾルとの相関—』

井澤修平 先生(早稲田大学研究機構生命医療工学研究所)

要旨: 唾液中コルチゾルは心理に関連した分野では比較的良好に使われる指標であり、その測定法も簡便になってきている。今回は各メーカーのコルチゾルの分析キットの特徴について発表する。実験で得られた唾液サンプルを3つのコルチゾルキット(DRG、ELISA法; Salimetrics、EIA法; IBL、LIA法)によって、また同時に得られた血漿サンプルをIBLのコルチゾルキット(ELISA法)によって、分析した。その結果、各キット間の相関は.90前後であり、おおむね良好な結果が得られた。当日は各キットの特徴などについてもあわせて紹介する予定である。

演題2 『急性ストレスに対する唾液中コルチゾールとDHEAの反応』

山田クリス孝介 先生(日本大学大学院理工学研究科)

要旨: デヒドロエピアンドロステロン(dehydroepiandrosterone: DHEA)は、コルチゾールと同様に副腎皮質から分泌されるステロイドである。最近、コルチゾールと

DHEA は免疫調整に反対の役割をもつという多くのエビデンスが示されており、注目を集めている (Evens et al., 2000)。DHEA はコルチゾールとは独立に働き、また糖質コルチコイドの拮抗物質として働くという2つの重要な機能を有する (Michael et al., 2000)。本研究では、これらコルチゾールと DHEA を取り上げ、急性ストレスに対するそれらの反応について検討した。本発表では、はじめに DHEA の免疫調整の役割について解説し、実験結果について報告する。

演題 3 『抑うつ症状が心理社会生物学的反応に及ぼす影響』
岡村尚昌 先生 (久留米大学大学院心理学研究科)

演題 4 『唾液中ストレス指標の工学的応用について』
野村収作 先生 (島根大学総合理工学部数理・情報システム科学情報分野)

演題 5 『介入による心理状態の変容 一星状神経節ブロック, 温泉入浴, 回想法一』
今瀬玄子 先生・舛田裕貴 先生・橋本憲明 先生
(別府大学文学部人間関係学科)

6. 懇親会

時間： 18:30 から 2 時間程度
場所： 「鈴よし」★会場周辺です。
会費： 学生・院生 3000 円程度
有職者 5000 円程度

7. 連絡先

第 4 回 PNEI 研究会への参加希望に関して
木村健太 (名古屋大学環境学研究科)
s050308d@mbox.nagoya-u.ac.jp

PNEI 研究会に関して
磯和勅子 (三重県立看護大学)
tokiko.isowa@mcn.ac.jp